

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 5年3月30日

学校法人星和学園
幼保連携型認定こども園
星和幼稚園

1. 本園の教育目標

神に創られ愛されている存在として、いろいろな体験を通し、心の調和を図り、神と人とを愛する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・新型コロナウイルス感染防止に努める。
- ・コロナ禍にあっても子どもたちに対して文化的生活を保障できるように保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。
- ・保護者との連携を大切にし、家庭と幼稚園双方で子どもを育てていく環境を作る。
- ・職員がオンラインでの研修に参加し、キャリアアップする機会を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	新型コロナウイルス感染防止に努める	B	<p>今年度も部屋の換気、ハセッパー水の噴霧を行い、11月には園舎と園バスに厚生労働省により新型コロナウイルスに有効と認められた界面活性剤を使用した「Vケア・ソリューションズ」を施行した。</p> <p>世の中の流れで新型コロナウイルス感染防止がゆるみがちになっていた時にも、子どもたちには手洗いうがい徹底し、声をかけ続けた。また、ハンドソープを随時使用できるように流しやトイレに設置した。</p> <p>行事や保護者会など保護者参加のものは、埼玉県の感染状況等も見ながら、人数を制限したり、縮小して行ったりして対応した。</p> <p>保護者が園内に入るときには検温を実施し、必ず消毒をしていただくように徹底した。</p> <p>それでも年中で担任を含め複数名の子どもたちが感染してしまい、それ以上の広がりを防ぐため、学級閉鎖を行ったのが2度あった。</p>
2	保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。	A	<ul style="list-style-type: none">・0歳児、1歳児では子どもたちの発達、興味を理解し、季節に合わせて遊びこめる活動を展開した。また、保育室の動線を子どもたちに分かりやすくしたので、子どもたちが意欲的に身の回りのことに取り組むことができた。・2歳児では子どもたち一人一人の成長に沿ったねらいを設定し、評価を繰り返すことによって子どもの意欲を高めるような準備や配慮ができた。・年少では、初めて親元を離れて集団生活に入る子どもたちを温かく迎え入れ安心して過ごせるように配慮した。・年中では遊びのコーナーを分け、子どもたちが落ち着いて遊びに取り組めるような環境づくりに配慮

			<p>した。</p> <p>・年長では子どもたちの興味関心が広がるよう教具や遊具の配置に工夫をした。また、学年を超えての交流を積極的に行った。</p> <p>コロナ禍で、不安になりがちな状況が多い中、教職員が一丸となって協力し、毎日元気に仕事につけるように、朝皆で心を合わせて祈り、自分の携わっているこの仕事がどれだけ意味のあるものかという価値を再確認した。昼礼や終礼では保育で気になったことや困ったことなどはお互いに話し合いながらより良い保育ができるように工夫してきた。</p>
3	保護者への説明、報告などを丁寧に行い信頼関係を作る。	B	<p>園長が変わったことで不安になった保護者もあり、また新型コロナウイルス感染防止のために行事が縮小されたことに対し不満に思う保護者もおられたが、保護者からの質問に向き合い、話し合いを重ねることで、一時的にできていた壁を少しずつ取り除くよう努力した。</p> <p>新型コロナウイルス感染対応のフローチャートを配布しており、保護者の方にも浸透していたので、実際にコロナに感染された時に園への連絡をすぐにしてくださる方が多かった。</p> <p>日々の保育で子どものけがや人間関係でのトラブルなどがあつた場合にはきちんと報告し、その状況を保護者が的確に理解できるように努めた。</p>
4	職員がオンラインでの研修に参加し、キャリアアップする機会を作る。	A	<p>園には発達障害を持っている子どもも複数名おり、その子どもたちを理解し援助できるよう8月に5名が障害児保育の研修を受けた。</p> <p>1月には保護者支援・子育て支援の研修を1名が受講した。</p> <p>不適切保育を防ぐための研修を正規の保育教諭は全員受講した。</p>

評価 (A…十分に成果があつた B…成果があつた C…少し成果があつた D…成果がなかつた)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>コロナ禍での保育も3年目に入り、感染防止につとめながら、子どもたちの学びと育ちを保証することはできた。保育者は日々の保育の中で、子どもたちによりよい保育を提供するために創意工夫をし、子どもたちは喜んで園生活を送ることができた。</p> <p>認定こども園となり5年目を迎え、教職員、保護者の方も慣れてきたため、スムーズにできた部分もあつたが、園長が替わつたことで保護者の中には園との意思疎通が難しくなつたと感じられた方もいらつしやつた。</p> <p>オンラインでの園内研修に積極的に参加し、教職員の資質の向上を図ることができた。</p> <p>園内研修ではこれまで園で大切にしてきたことを新しく入つた教職員に伝えるとともに、前からいる教職員も改めて見直し、確認する機会を持つことができた。</p>

評価 (A…十分に成果があつた B…成果があつた C…少し成果があつた D…成果がなかつた)

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	コロナ後の 行事運営へ の移行	コロナ禍で行事を縮小してきたが、今後戻していくにあたり、ただ前のよう に戻すのではなく、コロナ禍での行事運営においてよかった点（例えば年長 の子どもたちが中心となって行った夏祭り）などは活かしつつ、行事の充実 を図っていく。
2	危機管理意 識の向上と 取り組み	自然災害に対する意識だけでなく、最近の学校への不審者侵入事件を受け、 不審者対応の危機管理についても全員が意識を持って取り組めるように話し 合ったり、実際に訓練したりという機会を引き続き行っていく。
3	働き方改革 に言われる 労働時間の 短縮と働き 方の工夫	勤務時間を守って早く帰るように勧めるだけではなく、仕事の内容も把握 し、何が大切なことで残すべきか、何を削減できるかを共に考え、より良い 環境づくりに努めたい。また、ICT化を進め、簡素化できる部分は簡素化で きるように努める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年度同様、園児数は安定し、地域に根差した園として保護者からの支持を得ていると認められる。引き続き適切な運営を目指して、日々の保育の向上に励まれることを願っている。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に園運営されていると認められた。